

# 資料館だより

Vol. 37  
平成31年3月

「スマム」、始まりました。  
スマートミュージアム各務原

皇女和宮の昼食 / 坪内嘉兵衛の幕末  
企画展「幕末の各務原」

歴史民俗資料館 館蔵品展  
ミニ企画展「寺子屋へ行こう」

体験の感動を郷土の誇りへ  
ふるさとの歴史を皆さんと

各務原市歴史民俗資料館

〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町3丁目1-3(各務原市立中央図書館3階)  
TEL 058-383-1361 URL <http://www.kakamigahara.lg.jp/rekisi/>

# ①スマートってどんな意味?

「ミュージアム」とは、博物館のことです。では、「スマート」の意味は何でしょうか。

「あとの人の中はスマートですね」とよく言います。

その意味は「体が細い」ということです。

最近では、「スマートフォン」などのように、「ハイテク(先端技術)を備えた」という意味で使われることもあります。

一つの言葉には多くの意味があり、時代と共に使われ方も変わっています。

「スマートミュージアム各務原」には、これらとは別の「頭の良い、賢い」、「無駄がなく手際が良い」等の意味を込めています。

例えば、「彼は賢いね!」を英語で言うと「He is smart!」です。

## ②各務原市に歴史博物館はないの?

市内には人気の高い「岐阜かみがはら航空宇宙博物館」があります。また、「内藤記念くすり博物館」や、「世界淡水魚園水族館アクアトーキング」などもあります。

ところが、人文系の歴史博物館はありません。

それでも、ふるさとの豊富な歴史資料を何らかの方法で活かしたいと思います。



# スマートミュージアム 各務原

スマート、始まりました。

## スマートミュージアム協力市民団体

各務原市文化財を守る会  
各務原歴史研究会  
ヒストリー各務野会  
中山道鵜沼宿ボランティアガイドの会  
ふるさと楽会  
濃尾・各務原地名文化研究会

市内では、複数の歴史研究・文化財保護団体が熱心に活動しています。全ての団体を合わせると、400名程の会員がいらっしゃいます。これらの団体から協力を頂くため、相互の情報・意見交換を活発に行い、各務原市にふさわしい歴史研究、文化財保存の在り方を考えていきます。

## ③埋文や歴民はどんなところ?

各務原市埋蔵文化財調査センターは、遺跡や古墳の発掘調査をしています。各務原市歴史民俗資料館は、古文書や民具の収集・保存・整理をしています。この二つの機関は博物館ではありませんが、タイアップすれば様々な資料を使った展示や講座を行うことができます。

## ④小さな展示室を束ねる

市内には、木曽川文化史料館という合併前の旧川島町時代につくられた展示施設があります。

昨年度は、中央図書館に歴史ギャラリーを開設しました。このような小規模な展示室であっても、施設の空きスペースを有効利用すれば、もう少し展示品の量を増やすことができます。これらの展示室は分散することができますが、テーマを割り振って充実させ、博物館として束ねることができます。

## ⑤地域をまるごと博物館へ

各務原市は、史跡・文化財保存の先進地です。「スマートミュージアム各務原」では、炉畠遺跡や坊の塚古墳、大牧1号墳、天狗谷遺跡、村国座なども取り込み、町中を移動して各務原市の歴史が学べる「地域まるごと博物館」の構想を抱いています。

## ⑥市民の皆さんとともに

市内では、複数の歴史研究・文化財保護団体が熱心に活動しています。全ての団体を合わせると、400名程の会員がいらっしゃいます。これらの団体から協力を頂くため、相互の情報・意見交換を活発に行い、各務原市にふさわしい歴史研究、文化財保存の在り方を考えていきます。

## ⑦博物館活動から

博物館の役割として大切なことは、歴史資料の調査・研究で得た成果を、展示を中心とした活動によって市民の皆様へ分かりやすく伝達することです。博物館という建物がなくても、博物館活動はできると考えます。毎年、会場を借りて企画展を開催するほか、それを軸とした関連講演会や公開勉強会その他にも児童生徒やその保護者向けの体験講座を開催していきます。



# 平成30年度企画展 幕末の各務原

平成30年は「明治維新150年」ということで、全国

あちらこちらで企画展が開催され、その地域ならではの幕末が紹介されていました。

各務原市歴史民俗資料館も、幕末に関する貴重な資料を数多く所蔵しています。幕末の各務原市域は、中山道の宿場町であったということもあり、人や情報が活発に行き交う地域でした。

他の市町村にも負けない「幕末」がある——これを伝えたい思いで、企画展「幕末の各務原」を開催しました。人気の高い幕末史ではありますが、幕末に関する展示を行なうのは今回が初めてのことでした。

関連事業として、大学の先生方による講演会、市内歴史系団体の代表者による公開勉強会を開催しました。参加者による意見交換も活発に行われ、大変盛況でした。

他の市町村にも負けない「幕末」がある——これを伝えたかったので、企画展「幕末の各務原」を開催しました。

人気の高い幕末史ではありますが、幕末に関する展示を行なうのは今回が初めてのことでした。

関連事業として、大学の先生方による講演会、市内歴史系団体の代表者による公開勉強会を開催しました。参加者による意見交換も活発に行われ、大変盛況でした。

他の市町村にも負けない「幕末」がある——これを伝えたい思いで、企画展「幕末の各務原」を開催しました。人気の高い幕末史ではありますが、幕末に関する展示を行なうのは今回が初めてのことでした。

関連事業として、大学の先生方による講演会、市内歴史系団体の代表者による公開勉強会を開催しました。参加者による意見交換も活発に行われ、大変盛況でした。

## 各務原市に残る幕末の古文書



企画展の開催にあたって、展示解説『幕末の各務原』を作成しました。  
A4サイズ・全12ページ。歴史民俗資料館で無料配布しています。

## 皇女和宮の昼食

幕末の中山道、そして各務原にとって非常に大きな事件が、皇女和宮の降嫁です。

文久元年（1861）、朝廷と幕府とを結びつけようとする「公武合体」政策の一環として、孝明天皇の妹である和宮が、14代将軍徳川家茂に嫁ぐこととなりました。京都から江戸へ向かう際、当時最も通行する人が多かつた東海道は、海沿いを通るため大きな川が多く、川を渡る際の事故や川止めが心配されていました。そのため、多くの女性たちも同行する和宮の通行に際しては、中山道が選ばされました。

中山道を通行する和宮一行は、京都から江戸まで27日間かけて進みます。行程の8日目にあたる10月27日、加納宿を出発した和宮一行は、新加納の梅村屋という茶屋で小休憩した後、鵜沼宿で昼食をとりました。

加納宿（現岐阜市）・鵜沼宿では、荷物持ちの人足を1万6000人、荷馬を1000匹用意する一大事でした。人口が少なく農業従事者はばかりの鵜沼宿では、大勢の人足の確保は容易ではなく、周辺の農村にとって大きな負担となりました。村々には、「和宮が通行する前後5日間ほどは、15歳から60歳までの者は皆、人足として集まりなさい」という命令が出るほどの動員ぶりでした。

## 昼食を再現

鵜沼宿本陣桜井家文書には、和宮の献立の記録は残っていません。しかし当時の人々にとって、姫君の食事は関心事だったようで、大津の商人西村家の古文書に記録が残っています。



▲和宮御方様御下向御道中御次献立帳  
(西村幹夫氏蔵)

を再現しました。古文書を参考に作ってみると、赤貝、いな（ボラの幼魚）、さよりなど、海産物が多く使われていることを実感しました。鮮度の要求される食材のため、河川交通を活用して食材を集めしたものと思われますが、どのような流通が行われていたのかは今後の研究課題です。

また、当時の献立には、材料が列挙してあるだけで、味付けや盛り付けなどは記されておらず、わからない部分は想像で補うことになります。そのため、忠実な再現ではあります。現在の高齢者の皆さんにとっての幕末は、「ひいおじいさんの頃」の話であり、遠い昔の言い伝えではなく、最近の出来事なのでしょう。一つの資料として残しておく必要を感じました。

## 語り継がれる幕末

会場で来館の方々を案内する中で、「天狗党が通った時に岩滝のあたりで斬り合いがあつた、と祖父が言っていた」「天狗党が来て蘇原の百姓一同大慌てだったそ�だ、と父が言っていた」などの話を伺うことがありました。

これらは、古文書には書き残されていないエピソードです。現在の高齢者の皆さんにとっての幕末は、「ひいおじいさんの頃」の話であり、遠い昔の言い伝えではなく、最近の出来事なのでしょう。一つの資料として残しておく必要を感じました。

奈良漬、沢庵  
いな付焼（スズキ代用）  
味噌汁（赤）、ごぼう小口切  
赤貝、自然薯、銀杏、おろし生姜  
御飯  
さより、葉付大根、しいたけ



▲和宮 昼食再現料理

（長谷 健生）

えてくれます。各務原には、大きく分けて三種類の幕末の古文書があります。

一つ目は、坪内氏をはじめとする「旗本の古文書」です。旗本の領地支配の拠点である「陣屋」で記された、砲術稽古の許可を求める記録、戊辰戦争の軍中日記などがあります。二つ目は、農民の古文書です。異国船接近に伴う増税や、木曽川の氾濫に苦しめられる人々の姿が見て取れます。三つ目は、「鵜沼宿本陣桜井家文書」です。志を抱いて中山道を駆けた人々の休泊記録から、当時の様子を知ることができます。

農村地帯を中山道が貫き、旗本陣屋も宿場もある各務原は、様々な視点から一つの時代を見る事ができる、非常におもしろい地域です。例えば、幕末に多くの外国の船がやってきたという事件に対して、桜井家文書にはロシア船への幕府の対応に関する伝聞が記され、農民の古文書からは品川に台場を建造するための御用金徴収の命令を受けていたことがわかります。

また、旗本坪内氏は、「江戸へ鉄砲を持参する」と自分の戦意を幕府にアピールしていたことがわかります。一つの時代を多角的にとらえられるという点で、各務原市は優れた古文書群を有していると言えるでしょう。



▲料理教室講師の大森久仁子氏監修のもと、中山道鵜沼宿ボランティアガイドの方々と再現しました。

# 砲術のスペシャリスト 坪内嘉兵衛の幕末



坪内臺兵衛昌壽（1835～1911）

近代への転換期である幕末は、動乱の時代です。250年以上も続いた江戸幕府でしたが、異国船の接近や、長州藩・薩摩藩など雄藩の台頭により、その地位は揺らいでいました。

幕末は、戦国時代と並んで人気の高い時代です。薩摩の西郷隆盛や大久保利通、長州の高杉晋作や木戸孝允など、動乱の中で多くのヒーローが活躍することがその所以でしょう。では、「幕末の各務原のヒーローはだれか。企画展開催にあたり、資料を調査していく中でこれまで知られてこなかった一人の人物の姿が見えてきました。旗本前渡坪内氏の当主、坪内嘉兵衛昌壽です。

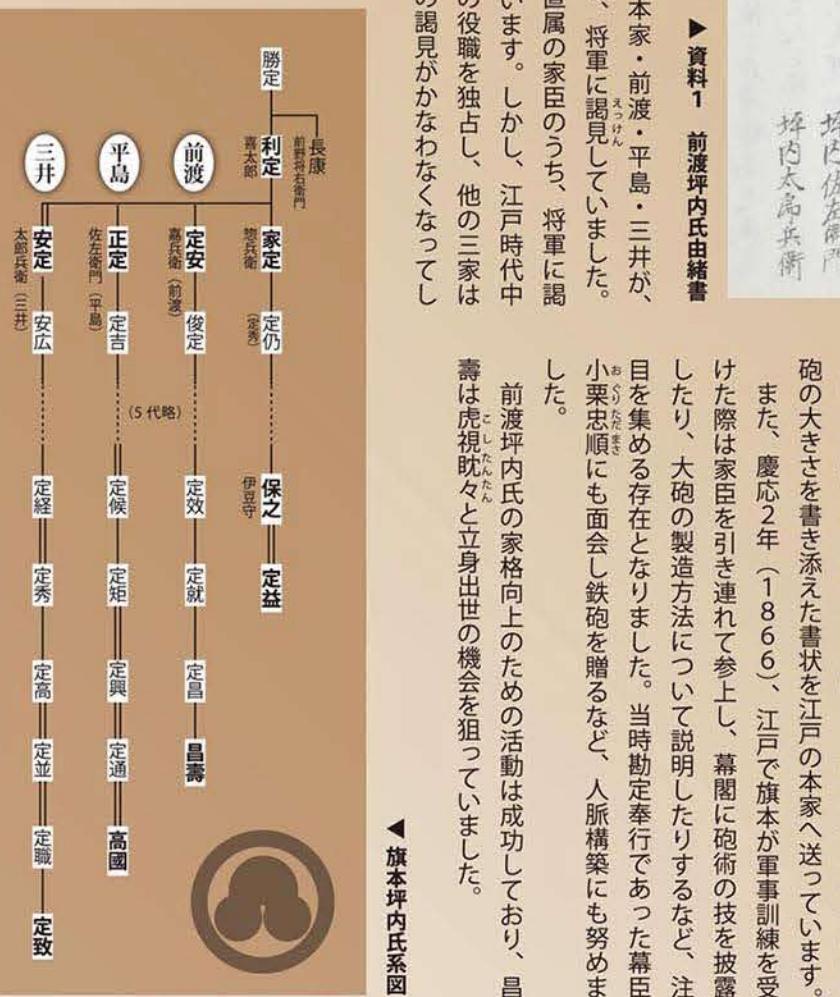
前渡坪内氏と砲術稽古

旗本坪内氏は、各務原市域南西部を中心に約6500石の領地を持つ旗本です。初代利定は、織田信長・徳川家康に仕え、関ヶ原の戦いでは鉄砲隊を率いて活躍し、利定とその4人の息子、計5人の連名で領地を認められました（資料1）。また、長男家定の家系を本家として、次男定安・三男正定・四男安定の家は、それぞれの陣屋の場所から、前渡・平島・三井の坪内氏と呼ばれました。

昌壽は嘉永年間（1848～1853）頃より各務野代に鉄砲隊を率いて活躍した坪内氏は、江戸時代にも砲術を得意とする一族であり続けていました。昌壽は、大砲演習によって幕府に自分たちの存在をアピールしようと考へていたようです。幕末の各務野を表した絵図には、大砲稽古の砲弾が、前渡山（矢熊山）から三井山付近まで、二〇五丁（約2700m）飛んだ、と記録されています（資料2）。

嘉永6年（1853）、いわゆる黒船来航によつて、幕府は異国船への対応を迫られました。品川での台場建設などが進む情勢の中で、昌壽は「万が一江戸で非常事態が起これば、鉄砲を持って参上する」と、持参できる十一挺の鉄砲の大ささを書き添えた書状を江戸の本家へ送っています。

また、慶應2年（1866）、江戸で旗本が軍事訓練を受けた際は家臣を引き連れて参上し、幕閣に砲術の技を披露したり、大砲の製造方法について説明したりするなど、注目を集めることになりました。当時勘定奉行であつた幕臣小栗忠順にも面会し鉄砲を贈るなど、人脈構築にも努めました。



江戸時代初期の坪内氏は、本家・前渡・平島・三井が一人ひとり独立した旗本として、将軍に謁見していました。そもそも旗本とは、幕府の直属の家臣のうち、将軍に謁見できる家格の者をいいます。しかし、江戸時代中期から、坪内本家が幕府内での役職を独占し、他の三家は職務がなくなつた上、将軍への謁見がかなわなくなつてしましました。前渡・平島・三井の坪内氏は幕府に訴え出ることによつて直參旗本としての家格を取り戻すことを目指しましたが、聞き入れられることはありませんでした。

さて、坪内嘉兵衛昌壽は、前渡坪内氏11代目の当主で、前渡村600石の領主です。

く新政府軍に味方する判断ができました。

昌壽は速やかに幕府に見切りをつけ、新政府方である尾張藩に従つ旨を書いた誓書を提出しました。さらに、総督岩倉具定・参謀板垣退助が率いる東山道鎮撫総督府の軍勢が大垣まで進軍すると、大垣まで出向いて総督に謁見して新政府方である意向を示し、東山道軍の一員として江戸へ向けて進軍することになりました。

という資料には、2月13日に総督府が「坪内某（嘉兵衛）ノ砲技ニ精通スルヲ聞キ」、昌壽の大砲の技術を見込んで、総督府軍にスカウトしたことが記録されています。「御進発御列書」（資料3）という古文書には、長州・土佐の両藩のすぐ後に、「大砲壱丁 坪内嘉兵衛」と記されており、その後ろに弟の監物（坪内資胤<sup>すけたる</sup>）、永井弘衛、山本軍八郎ら家来たちが続きます。昌壽本人を入れても総勢8人だけの一言ですが、総督府軍の昌壽に対する期待が見て取れる布陣と言えます。長年の各務野での大砲稽古が報われたと言えます。

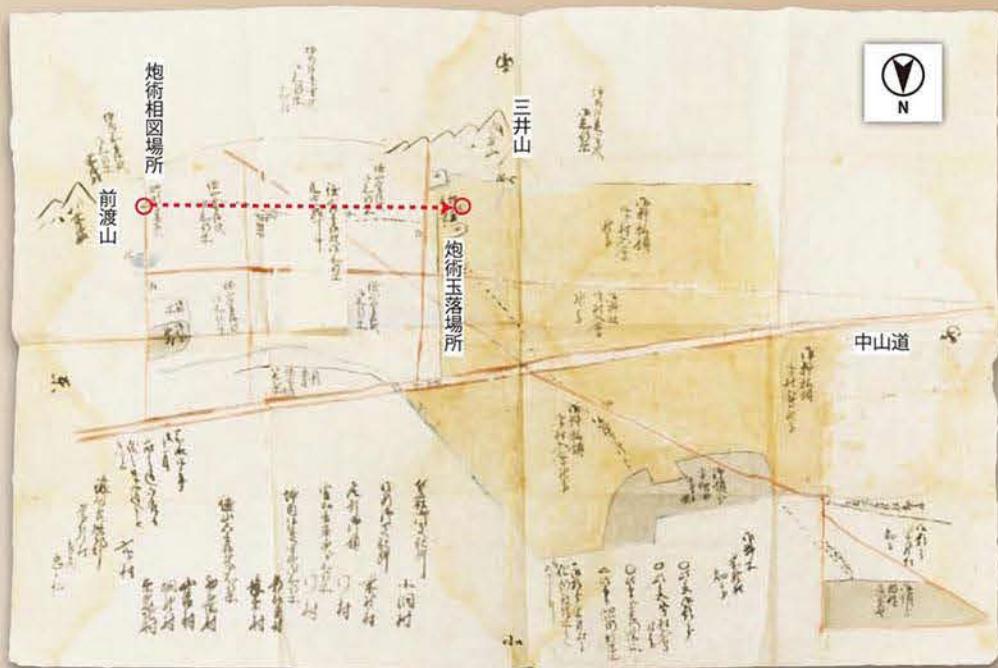
さて、東山道鎮撫総督府に従い、無事に領地を安堵された昌壽ですが、その後の人生も順風満帆というわけにはいきませんでした。明治3年から京都に家族とともに移り住み、京都御所玄関詰、勧業課工商係などの



坪内昌壽墓石

戊辰戦争と坪内昌壽  
慶応4年（1868）1月3日、鳥羽・伏見の戦いをきつ

「鎮撫総督府」を東海道・東山道・北陸道・山陰道・九州・中国四国へ派遣し、全国の鎮定を始めました。



▲資料2 各務野八ヶ村入会地炮術放場所絵図（横山恒雄家文書 岐阜県歴史資料館蔵）



▶ 資料3 御進発御列書（永井家文書）

寺子屋では、子どもたちが生活に関係する言葉の読み書きや計算などを学びました。

また、学ぶ中で、道徳や理科、社会科（歴史・地理）の知識も得ていきました。

各務原市域にも、明治初期の調査で各村に寺子屋があつたことがわかつています。

当館は、寺子屋で使用された「往来物」「御手本」などの資料を多く所蔵しています。

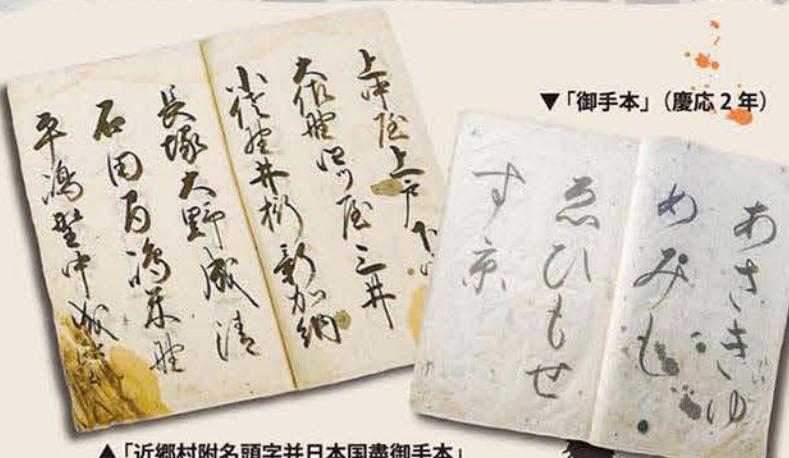
今年度、ミニ企画展としてこれらの資料を展示し、江戸時代の学びの様子を感じていただきました。

## 歴史民俗資料館品蔵品展 寺子屋へ行こう

### 教科書のラクガキ

#### 江戸時代の教科書

##### 往来物とは



▼「御手本」(慶応2年)

▲近郷村附名頭字并日本国盡御手本  
(慶応2年)

江戸時代の子どもたちはどのように読み書きを学んだのでしょうか。僧侶や村の庄屋など、読み書きができる師匠のところへ行って学びました。このような学問施設は、「手習所」「訓蒙屋」「寺子屋」などと呼ばれていました。ここでは「寺子屋」と呼ぶことにします。

江戸時代に寺子屋で使われた読み書きの教科書を総称して「往来物」と呼ぶことがあります。「往来」は、現在では人の行き来について使うことが多いですが、人ととの間を「往来」する手紙のことを指すこともあります。

江戸時代に寺子屋で使われた読み書きの教科書を総称して「往来物」と呼ぶことがあります。「往来」は、現在では人の行き来について使うことが多いですが、人ととの間を「往来」する手紙のことを指すこともあります。

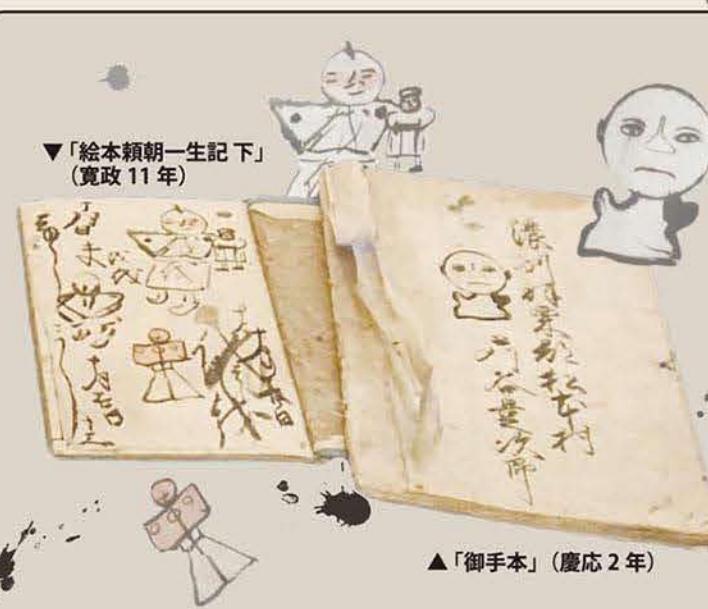
往復書簡（往来）形式を取って、子どもたちに必要な知識や礼儀作法の関心を呼ぶための教科書が、「○○往来」です。○○には、商売・農業・工匠・風月・江戸など、その内容に応じた言葉が入ります。商売関係の語彙を中心に収録したものには「商売往来」、農業関係の語彙を中心に著されたものは「農業往来」となります。

往復書簡形式の往来物ではないものも含めると、寺子屋で使われた教科書の種類は数千種類になります。この中には出版されていた定番の書物のほか、各寺子屋の師匠がその地域に合わせて教え子に書き与えたものも含まれます。

当館が所蔵している「教科書」の中には、各務原周辺地域の地名の読み書きを覚えるためのものが多く、上中屋・三井・新加納など、今でも町名にその地名が残っている地域もあります。

学生の頃、退屈な（といふと先生方に怒られます）授業を聞きながら、あるいは休み時間に教科書やノートの空きスペースを使って落書きをした覚えがある人は少なくないでしょう。歴史上の人物の写真にヒゲを付け足してみたり、授業とは全く関係のない絵を描いてみたり、落書きが残る教科書を見返すと、当時の退屈なりに楽しめた思い出がよみがえります。

このような教科書の落書きは、江戸時代の読み書きの教科書（往来物）の中にも見られます。手習いの最中に描いたものか、後から描いたものかはわかりませんが、描いた人の個性を垣間見ることができます。



▼「絵本頼朝一生記下」  
(寛政11年)

▲「御手本」(慶応2年)

#### 各務原市域の寺子屋

明治初期に全国の寺子屋の調査が行われました。この時、現在の各務原市域では40校の寺子屋の存在が確認されています。しかし、この調査結果には、鵜沼地域の寺子屋が含まれていません。また、対象となった村においても、調査結果に記されている以外の師匠が寺子屋を開いていたことが、各務原市史などからわかるため、實際にはこの調査の前記の調査でわかる、各務原市域における寺子屋の様子をみてみましょう。

師匠の職業を見ると、僧が半数の21人を占めます（表「師匠の職業」）。また、「土」身分が1人いますが、これは前渡村の永井弘衛です。永井弘衛は、前渡坪内家に家来として仕えていた人物で、当主昌壽に従つて、慶応2年の江戸出府、同4年の戊辰戦争に従軍しました。弘衛は、旗本の陣屋で政務に携わる傍ら、弘化元年（1844）に「松柏軒」と号する寺子屋を開き、男子37人、女子9人に漢字・算術などを教えていたようです。

寺子屋では読み書きだけではなく、家族や兄弟以外の人たちとの付き合い方や行儀作法など村の一員として身につけるべきことを学んでいたようです。そのため師匠とは生涯の付き合いになることも多く、師匠が亡くなつた際には、教え子（筆子）たちが師匠の教えに感謝して、いわゆる「筆子塚」と呼ばれる報恩塔を建立することがありました。

#### 寺子屋から小学校へ

明治初期、国家により近代的学校制度が導入されました。最初期の学校は、寺の本堂（敬格学校・洗心学校・三省学校・博文学校）や鵜沼宿本陣桜井家（新々学校）など、もともと寺子屋に代わる新たな「学校」で指導にあつたようです。

下中屋村に敬格学校を設置する際の「小学校義開業願書」によると、前渡村で寺子屋を開いていた高崎諒三という医師や近隣の寺院の僧が教師として採用を予定されています。まだ教員養成機関の卒業生が少ない中で、地元の知識層が寺子屋に代わる新たな「学校」で指導にあつたようです。



企画展会場のようす

寺子屋は、師匠から地域の地名や生活の知恵を学ぶ民間教育の場でしたが、学校制度の導入によってその役割を終えました。しかし、人々の識字率の向上によって日本の近代化を早めたという意味で、寺子屋の果たした役割は大きかったと言えるでしょう。

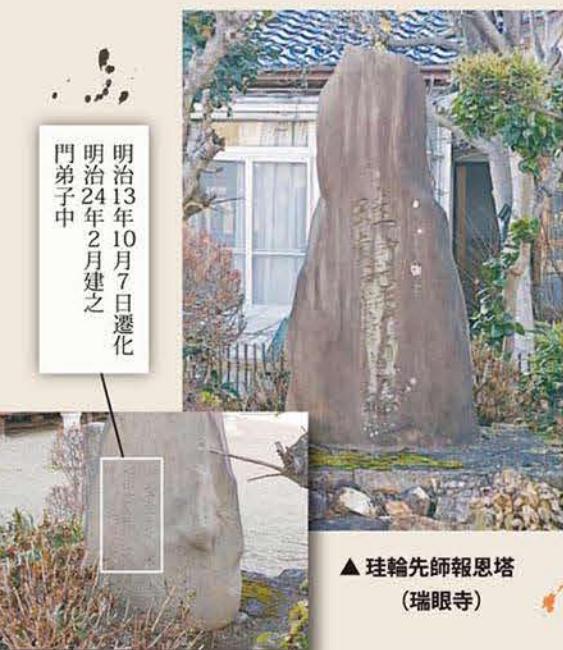
現在各務原市では、「かかみがはら寺子屋事業」を行っています。「地域資源を活用し、地域の皆さんとともに子どもたちを育てていこう」という事業です。地元の方が「師匠」となつて、ふるさとならではの文化や知識を伝承していくことは、子どもたちにとってより身近で充実した学びとなります。私も資料館は、「師匠」と子どもたちの橋渡しとなれるような活動を今後も行つていきたいと考えています。

（引地歩）

【参考資料】  
・日本教育史資料「8」雑纂 私塾寺小屋表／文部省編／明治23-25  
・各務原市史（通史編・近世・近代・現代）  
・川島町史（通史編）

寺子屋から小学校へ

明治13年10月7日遷化  
明治24年2月建之  
門弟子中



▲珪輪先師報恩塔  
(瑞眼寺)

僧	21
平民	10
農	4
医	3
神官	1
士	1
計	40

表 師匠の職業

寺子屋の子どもの数を男女別で見ると、男子が平均27人、女子の平均は7人で、多いところでも13人（成清村）しか寺子屋へ通つていなかつたようです。前述の松柏軒は、各務原市域では平均的な規模といえるでしょう。

寺子屋では読み書きだけでなく、家族や兄弟以外の人たちとの付き合い方や行儀作法など村の一員として身につけるべきことを学んでいたようです。そのため師匠とは生涯の付き合いになることも多く、師匠が亡くなつた際には、教え子（筆子）たちが師匠の教えに感謝して、いわゆる「筆子塚」と呼ばれる報恩塔を建立することがありました。

# ふるさとの歴史を皆さんと

「体験の感動を郷土の誇りへ」

各務原市には誇るべき歴史資料・史跡が数多くあります。

私たち歴史民俗資料館は「ふるさと」の貴重な古文書や昔の道具などを多数収蔵・管理しています。

これらを活用した企画展示や出張講座を開催し、市民の皆さんにふるさとの歴史、ふるさとにある「本物」のすばらしさをお伝えするために、日々活動しています。

## 本物に触れて

技術の進歩した現代では、初めて知ることや別の視点からることは、インターネットやテレビなどで感覚的に「間接体験」をしたり、「疑似体験」をしたり、ショパンや模型などを通じて模擬的に「疑似体験」を行えるのですが、当館ではもっとアナログに、子どもたちや市民の皆さん方が本物に直接触れ、その事物を実感していただく「直接体験」を大切にしています。



## 間近で見て触つて

鵜沼三ツ池町にある炉畠遺跡は、昭和42年の土地改良に伴い発見された、縄文時代中期と晩期の遺跡です。現在は公園として整備され、竪穴住居や掘立柱建物が復元されています。市内外の小学校6年生が社会科の縄文時代の学習で利用しています。

この遺跡での出前授業は、市が所蔵している矢じりや石の重り、復元された縄文土器など形あるものを間近で見たり、実際に手に取ったりして、手触りなどを感じもらっています。



## すごいなあ、これ

出前授業のほかに、市の「ふるさと歴史発見事業」として小学校高学年を対象に、歴史講座を行いました。当館が所蔵しているふるさとの歴史資料に直に触ってもらい、その物がもっている歴史を感じてもらおうという趣旨です。資料を観察し、实物に触れて、「発見」や新たな「気付き」を得られたらと考えました。

市内の遺跡から出土した須恵器、江戸時代の鎧兜・火縄銃、戦時に使用された双眼鏡、戦後も使われた羽金などそれらの道具の時代背景を学び、使い方を「体験」することで、子どもたちちは目を輝かせていました。

この講座に参加した子どもたちには、「ふるさと各務原」に誇りと愛着を少しはもつてもらえたのではないかと、自負しています。



てきます。復元住居ではありませんが、縄文時代の人々の暮らしを身近に感じられた時間でした。

「上の穴はなぜ開いているの」「出入口はなぜ南にあるの」など、疑問を次々に口にします。子どもたちの探求しようとする姿勢には、いつも感心させられます。



【小学3年生の感想】(那加第二小学校)

- ・昔のかまど、アイロン、ランタンの使い方をいろいろ教えてくれて、おばあちゃんはこんなのは使っていたんだなとわかった、楽しかったです。
- ・昔の道具の話で特に心に残ったのがアイロンです。今のアイロンが、炭を使ったアイロンからこんなに変化していったのかは知りませんでした。
- ・ぼくは、『日本のれきし』という本を何度も読んでいるけど、道具のことはちっとも知らなかったので、とても勉強になりました。「はがま」くらいしか知らないかったけど、昔の道具のことがいっぱいわかりました。

出前授業「古い道具と昔のくらし」



【参加者の感想】

- ・実物に触れて、昔の人の生活がちょっとわかった。もっと各務原のことが知りたい。
- ・本当に使っていた物があったり、すごい武器などいろいろな物がさわれたりしておもしろかった。
- ・こんな体験は二度とないと思うので、忘れないようにしたい。他の資料館にも行ってみたい。

今後も、日常では経験のできない特別な体験、普段は見たり触ったりすることができます。各務原は、古い歴史と文化が根付く地域です。普段、私たちが何気なく暮らす「ふるさと」を今よりもよく知りたいとき、生活の地である各務原に今まで以上に愛着や誇りをもつていただけたらと願っています。

(杉山一博)

## 平成 30 年度の歩み

### 「幕末の各務原」関連事業

幕末の各務原は、中山道の宿場町であったこともあり、人や情報が活発に行き交う地域であった。明治維新から 150 年の今年、幕末の各務原に関する人物に焦点をあて、企画展及び講演会等の関連事業を開催した。

企画展	会期 11月17日(土)～12月16日(日)
	会場 中央図書館 3 階 展示室 A
	来場者 1,540 人
公開勉強会	① 8月8日(水) 参加者 60 人 「各務原における高札」 歴史民俗資料館学芸員 長谷健生 「前渡坪内氏の幕末」 古文書講座講師 坪内健治
	② 10月31日(水) 参加者 50 人 「『新加納庄村屋今尾太平治留帳』に見られる出来事」 元歴史民俗資料館長 大森利博 「『たみやみぞ』あれこれ」 鵜沼宿ボランティアガイドの会世話役 黒内昭
	会場 中央図書館 4 階 多目的ホール
	① 9月29日(土) 受講者 69 人 「水戸浪士一行の通行」 岐阜女子大学文化創造学部 教授 丸山幸太郎
	② 10月13日(土) 受講者 68 人 「史料からみる坪内氏の幕末」 岐阜女子大学文化創造学部 講師 辻公子
	③ 11月10日(土) 受講者 75 人 「旗本・徳山五兵衛家の盛衰」 中部学院大学教育学部 教授 友田靖雄
	④ 11月24日(土) 受講者 70 人 「幕末史の転換点・文久 3 年 一何が歴史を動かしたか」 名古屋大学名誉教授 羽賀祥二
	会場 中央図書館 4 階 多目的ホール

### ミニ企画展 「寺子屋へ行こう」

会期 平成 31 年 1 月 26 日(土)～2 月 11 日(月)
会場 中央図書館 3 階 展示室 B
来場者 455 人

### 講座事業

1	各務原の歴史をさわろう 開講日 / 8月7日(火) 会場 / 中央図書館 4 階 第 1・2 研修室 受講者 / 11 人(小学校 4 年生以上)
	①5月22日 ②6月5日 ③6月19日 ④7月10日 ⑤7月31日 ⑥8月7日 ⑦8月28日 ⑧10月2日
	(中級編) 受講者 / 18 人 ①10月16日 ②11月6日 ③11月20日 ④12月4日 ⑤12月18日 ⑥1月8日 ⑦1月22日 ⑧2月5日
	会場 / 中央図書館 4 階 会議室

### 木曽川文化史料館(川島会館 4 階)

「各務原空襲資料室」「民俗資料室」7月21日(土) オープン ミニ講演会 7月21日(土) ①「各務原市民の戦時体験～聞き取り調査を通じて」田中稔 ②「米軍撮影写真から知る各務原空襲」福手一義 会場 / 木曽川文化史料館 4 階 研修室 受講者 / 15 人 ●平成 30 年度 木曽川文化史料館来館者 / 2,243 人(1月末現在)
--

### 出前講座・職員講師派遣

実施日	講座先	内容	人数
1 4月7日(土)	清住町ふるさとカレッジ	各務ヶ原飛行場 100 年史	36
2 4月15日(日)	各務原美術愛好会	那加町と各務ヶ原飛行場の歴史	16
3 4月16日(月)	東海学院大学健康福祉部	各務原にんじんを育む 各務原台地を理解する	37
4 4月18日(火)			23
5 5月8日(火)	西ライフデザインセンター	各務原市の考古学入門①	31
6 5月14日(月)	中山道鵜沼ボランティアガイドの会	伊木山新コース研修	12
7 5月22日(火)	西ライフデザインセンター	各務原市の考古学入門②	31
8 5月26日(土)	新加納間の宿まちづくり会	旗本坪内陣屋をとりまく 新加納の歴史的魅力	46
9 6月12日(火)	西ライフデザインセンター	各務原市の考古学入門③	31
10 6月15日(金)	岩倉郷土に学ぶ歩く会	炉畠遺跡	30
11 6月26日(火)	西ライフデザインセンター	各務原市の考古学入門④	31
12 7月10日(火)	西ライフデザインセンター	各務原市の考古学入門⑤	31
13 7月25日(火)	いきいき楽習課	アートコミュニケーション事業	7
14 8月7日(火)	生活協同組合コープぎふ	各務原空襲のはなしを聞いてみよう	20
15 9月17日(月)	犬山子ども大学	炉畠遺跡について	25
16 9月25日(火)	東海学院大学健康福祉部	各務原にんじんを育む 各務原台地を理解する	22
17 10月1日(火)			45
18 10月5日(金)	東ライフデザインセンター	各務原の歴史探訪	27
19 1月11日(金)	ヒストリー各務野会	各務原市の中世山城	24
20 1月19日(土)	ふるさと楽会	幕末の各務原	21
21 1月25日(金)	ヒストリー各務野会	鵜沼地区中世遺跡散策	24
22 2月7日(木)	教育センター教員研修会	貴重な歴史資料を触ろう	8
23 2月14日(木)	中山道鵜沼ボランティアガイドの会	拓本実習	9
24 2月14日(木)	教育センター教員研修会	昔の資料で授業をおもしろくしよう	4
25 2月20日(水)	シダックス(株)支援員研修会	身近な歴史を学ぼう	80

### 学校見学・出前授業・職場体験

実施日	学校名	見学施設等	人数
1 4月18日(火)	陵南小学校 6 年	出前授業	67
2 4月19日(水)	鵜沼第一小学校 6 年	炉畠遺跡	115
3 4月25日(火)	陵南小学校 6 年	坊の塚古墳・衣裳塚古墳	67
4 5月10日(木)	稲羽東小学校 6 年	炉畠遺跡・大牧 1 号古墳	37
5 5月11日(金)	鵜沼第二小学校 6 年	脇本陣	110
6 5月11日(金)	中央中学校特別支援	炉畠遺跡・村国座	12
7 5月17日(木)	川島小学校 4 年	木曽川文化史料館	126
8 5月23日(火)	鵜沼中学校 1 年	天狗谷・村国座・鵜沼宿	182
9 6月1日(金)	中央小学校 3 年	村国座	75
10 7月4日(火)	鵜沼第三小学校 3 年	出前授業	90
11 7月5日(木)	陵南小学校 6 年	大牧 1 号古墳	67
12 10月19日(金)	那加第二小学校 3 年	出前授業	73
13 10月19日(金)	生津小学校 6 年	炉畠遺跡	53
14 10月25日(木)	中央中学校 2 年	職場体験	4
15 10月26日(金)	中央中学校 2 年	職場体験	4
16 10月30日(火)	蘇原第一小学校 6 年	出前授業	173
17 10月31日(水)	川島中学校 1 年	炉畠遺跡	109
18 11月2日(金)	八木山小学校 3 年	鵜沼宿	45
19 11月2日(金)	茜部小学校 6 年	炉畠遺跡	136
20 11月6日(火)	蘇原第一小学校 6 年	山田寺跡・加佐美神社	173
21 11月7日(水)	鵜沼第三小学校 3 年	中山道①	87
22 11月9日(金)	瑞穂市南小学校 6 年	炉畠遺跡	89
23 11月13日(火)	鵜沼第三小学校 3 年	中山道②	87
24 11月16日(金)	鵜沼第二小学校 3 年	村国座	98
25 11月27日(火)	各務小学校 3 年	村国座	30
26 12月7日(金)	岩小学校 6 年	炉畠遺跡	54
27 12月14日(金)	鵜沼第三小学校 3 年	鵜沼宿	87
28 1月18日(金)	川島小学校 3 年	木曽川文化史料館	131
29 2月7日(木)	鵜沼第三小学校 3 年	鵜沼宿	87